簡易版大学生用メンタルヘルス尺度の信頼性・妥当性の検討および SOC との関連

大矢　薫・澁井　実・大平芳則・北村拓也・長谷川千種・近　貴司・大野達八・押木利英子
（新潟リハビリテーション大学）

キーワード：大学生，メンタルヘルス，SOC

目的

大学生のメンタルヘルスを測定するツールとして UPI 学生精神的健康調査（University Personality Inventory）が有名であるが，質問項目が 60 項目と多く，実施に時間もかかることから心理的負担が大きいと考えられる．そこで，大矢ら（2016）は具体的な支援を考えることができるチェックリストのような内容であり，かつ心理的負担がそれほど大きくなく，大学生のメンタルヘルスの状態を簡便に測定することができる 22 項目からなる尺度を作成した．しかし，調査対象者が少なく，信頼性・妥当性の十分な検討ができていない．そこで本研究では，内的整合性と既存の尺度である K6 との関連を検証することによって，信頼性・妥当性の評価を行う．さらに，メンタルヘルスに対する具体的な支援を考えていくためにストレス対処能力である SOC との関連について明らかにすることを目的とする．

方法

調査時期と対象者：2017 年 7 月，大学生 152 名

調査内容：

①簡易版大学生用メンタルヘルス尺度（大矢ら，2016）

②K6（うつ病・不安障害のスクリーニング調査票）（古川ら，2003）

③日本語版 SOC-13 尺度（アントノフスキーら，2001）

本研究は，新潟リハビリテーション大学の倫理委員会の承認を得ている．

結果

記入不備があった 10 名を除いた 142 名（有効回答率 93.42%）を分析対象とした。探索的因子分析（主因子法，Promax 回転）によって因子構造を検討した結果，1 因子構造の可能性が示され，信頼性は α=.79 であった．妥当性の検討として，K6 との相関は r=.74 であった．メンタルヘルス得点の平均値±1*SD* を基準として，メンタルヘルス良好群，標準群，不良群に分け，SOC 全体と各因子（把握可能感，処理可能感，有意味感）との関連を検討すると，良好群と標準群は不良群に比べて有意に高い得点を示した（表 1）．

考察

簡易版大学生用メンタルヘルス尺度は高い内的整合性と K6 との高い相関が得られ，信頼性，基準関連妥当性ともに確認された．SOC との関連から，メンタルヘルス不良群はストレス対処能力が低いことが示され，メンタルヘルスの改善を支援するとともにストレス対処能力を身につけるストレスマネジメント教育や健康教育の実施が重要であると考えられる．

利益相反開示；発表に関連し，開示すべき利益相反関係にある企業などはありません．

（OHYA Kaoru，SHIBUI Minoru，OHDAIRA Yoshinori，KITAMURA Takuya，HASEGAWA Chigusa，KON Takashi，OHNO Tatsuya，OSHIKI Rieko）

表1　メンタルヘルス得点による群分けとSOCとの関係

	メンタルヘルス良好群（n=15）		メンタルヘルス標準群（n=107）		メンタルヘルス不良群（n=20）			
	M	*SD*	*M*	*SD*	*M*	*SD*	*F*（2, 139）	多重比較
メンタルヘルス（α=.79）	1.67	0.49	6.15	2.53	14.80	1.85	160.14	3＞2＞1***
K6（α=.91）	2.07	3.24	5.00	4.34	15.10	5.04	52.70	3＞1***，3＞2***，2＞1*
SOC（α=.77）	63.00	9.06	56.60	8.60	40.60	8.65	35.92	1＞3***，2＞3***，1＞2*
把握可能感（α=.55）	22.73	3.73	21.27	4.33	15.40	3.99	18.37	1＞3***，2＞3***
処理可能感（α=.52）	19.93	3.54	17.21	3.80	12.75	3.58	17.60	1＞3***，2＞3***，1＞2*
有意味感（α=.59）	20.33	3.27	18.11	3.41	12.45	4.41	26.57	1＞3***，2＞3***，1＞2†

†p<.10，*p<.05，***p<.001

多重比較の部分の1は「メンタルヘルス良好群」，2は「メンタルヘルス標準群」，3は「メンタルヘルス不良群」